

2017 度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 16 日作成)

小委員会名	地域観光プランニング小委員会	主 査 名：岡村祐 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：鵜 心治 主 査 名：鵜 心治
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1) 観光振興をより意識し、地域資源の保全・育成から産業化までを多様な担い手が組むことで実現する観光まちづくり像「地域観光」を実現していくための政策から事業運営までの手法＝地域観光プランニング（計画技術・方法論）の探求 2) 観光庁等の施策やDMOの議論がマーケティングに偏重しているなかで、観光資源のマネジメント（保全・育成）との両輪として進める観光地形成・経営のあり方の探求（地域環境計画・管理学と経営学の融合） 3) 上記目標の社会実装のための人材育成等のアウトリーチ方法の開発・推進	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 岡村 祐（首都大学東京）、川原 晋（首都大学東京）、姫野 由香（大分大）、海津 ゆりえ（文教大）、内海 麻利（駒澤大）、伊藤 弘（筑波大）、泉 英明（ハートビートプラン）、佐野 浩祥（金沢星稜大）、永瀬 節治（和歌山大）、泉山 墨威（東京大）、永野 聡（三重大）、石川宏之（静岡大学）、西川亮（日本交通公社）、山崎嵩拓（東京大学）	
設置 WG (WG 名：目的)	地域観光プランニング出版WG 目的：第 1 期「観光と地域プランニング小委員会」の成果として、地域観光プランニングの理論編の執筆・出版を行う。	
2016 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス： http://tourism-and-regional-planning.com

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物（シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 地域観光プランニングの前提となる「各観光地域が現状を自己診断できる方法を探求する」ことに対しては、観光地域の発展経緯から現状を把握する方法を別府、由布院等を対象に研究を進めた。この成果はWGとして進めている刊行図書へ掲載される予定である。</p> <p>2. 「先進地事例の視察」としては、大半の委員が参加する合同視察の対象地として、ニセコ地域(3/25-27)を訪問した。官民一体となった国際的なスノーリゾート地における環境管理や観光事業について、議員、行政職員、民間事業者等へのヒアリング調査、現地踏査を行った。</p> <p>3. 「人材育成プログラムを実施する」という目標に対しては、山口県長門湯本温泉において、地域観光プランニングのプロセスを体験し、実際に計画提案を行う「地域観光プランニングカレッジ」を9月24日～27日に実施した(事前のオンライン会議を2度実施)。12名の学生・学部生(委員の指導学生が中心)を対象に、13名の指導スタッフ(委員11名+地元山口大学の2教員)に加えて、地元の旅館業、デザイナー、陶芸家等の協力を得て、4日間の教育プログラムを試行した。参加学生に対する事後アンケート調査結果や小委員会での総括を踏まえて、改善されたプログラムを来年度実施する予定である。</p> <p>4. 「活動成果をする発信」という点においては、「地域観光プランニングカレッジ」の活動内容をまとめた報告書や動画を作成し、年度内に公開する予定である。一方、地域観光プランニングの理論・方法論に関しては、WGで進めている図書の出版に注力したため、今年度は成果の発信には至っていない。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 地域観光プランニングとして大事にしている環境管理と、観光事業・観光経営の融合・協調という点について、今後具体的に研究を進めていく必要がある。</p> <p>2. 地域観光プランニングを進めていくための職能、人材、組織に関して、「カレッジ」の試行やケーススタディを踏まえて、研究していく必要がある。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。